



1985年10月29日

ドンデーン研究国内セミナーご参会の皆様

生前浩一が御世話になりました皆様方に御無沙汰ばかり失礼致して申しわけなく存じて居ります。

今年早や七回忌を迎え感慨も深いものがございます。ドンデーンの村のことは私自身は浩一の話聞くのみでございましたが、その追跡調査が今も皆様のお力で継続されているということは、浩一にとりましてはさぞや本懐とするところではないかと思わずにいられません。

そして此度、その中間報告会にて浩一への皆様のお気持ちを七回忌のお供えとして頂きましたので早速霊前に供えさせていただきましたが、私と淳一、洋二、明と共にここに心より有難く御礼申し上げます。

長男淳一は千葉大理学部2回生、次男洋二は専修大経済二部1回生、三男明は来春小学校卒業へと、この6年間に過ぎましたが、まだまだの者ばかりでございます。これからも皆様の御指導の程よろしく御願い申し上げます。今までは夢中で過ぎましたが、来春より明も京都にて中学進学を考えて居りますので、皆様とも御目にかかる機会があります様、願って居ります。御一人ずつの皆様にお礼申し上げます。私共の感謝の気持ちと、ドンデーン研究のご進展とご成果を心待ちして、皆様のお健やかならんことをお祈り申し上げます。そしていつに変わらぬ浩一への永い暖かい皆様のお気持ちに最も嬉しく有難く、これからもゆきたく存じます。

水野松子

